

平成25年第4回(9月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|----|-----|-------|
| 1 | 18番 | 栗原通泰君 |
| 2 | 4番 | 松本均君 |
| 3 | 11番 | 大場雄三君 |
| 4 | 9番 | 二村禮一君 |
| 5 | 19番 | 鷺山喜久君 |
| 6 | 12番 | 草賀章吉君 |
| 7 | 6番 | 小沼秀朗君 |
| 8 | 2番 | 雪山敏行君 |
| 9 | 10番 | 野口安男君 |
| 10 | 8番 | 渡邊久次君 |
| 11 | 5番 | 窪野愛子君 |

平成25年第4回(9月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

9/18 AM 18番 栗原通泰君

4番 松本均君

PM 11番 大場雄三君

9番 二村禮一君

19番 鷺山喜久君

9/19 AM 12番 草賀章吉君

6番 小沼秀朗君

PM 2番 雪山敏行君

10番 野口安男君

8番 渡邊久次君

5番 窪野愛子君

一般質問通告要旨

議席番号	18	氏名	栗原通泰	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 小中2学期制の成果と今後の教育方針について (答弁：市長・教育長)

ゆとり教育の名のもとに、週5日制時代を迎えて当市教育委員会は平成18年度に小中32校（現在31校）で2学期制を取り入れ「ゆとり」の中で「生きる力」を養い、そして「新しい学校づくり」と「教職員の意識改革」を基本に改革に取り組みがされて来た。その推進状況について保護者から見た評価、そして教師の立場から見た評価について伺う

- (1) 教育改革として位置づけ、推進してきた2学期制の成果と今後の方針を伺う
- (2) 全国学力テストが最近行われその結果が発表されたが、当市の小学生と中学生の学力についてはどのように評価しているか。また学力向上策について伺う
- (3) 苦手分野を克服するため文科省が20億円の予算を組んで土曜日の補習授業支援を考えているが、当市としてはどのように考えているか伺う
- (4) 各学校における今年度の指標・目標値の推進状況について伺う。特に退職教員によるボランティア要員の確保と学園化構想による地域ボランティア態勢づくりの経過について伺う

2 選挙の投票率向上について (国政・県政含む) (答弁：市長)

今や国、地方問わず選挙の投票率は低いものであると常識化されている。当市もご多分に漏れず低下傾向に歯止めがかからず、先の県知事選挙では55.13%、前回より12.09ポイントの低下。参議院選挙では56.46%で前回の選挙より5.26ポイント低下している。また当市の市長選、市議選についても、66.09%で前回より7.6ポイント低下している。民主主義の根幹にかかわる選挙制度が今や国民自らが権利放棄する時代へと変節してきている。このような状況を少しでも改善していく努力が求められている

- (1) 今年4月以降の各選挙における投票率に対する見解を伺う
- (2) 選挙管理委員会等で投票率の分析と投票率向上策について議論されているのか伺う
- (3) 学生ボランティア（高校生以上で有償）による投票所事務の取り組みや辺地での移動投票所開設（車両使用）など利便性向上も1つの方策と思うが選挙管理委員会の見解と具体策を伺う

3 旧教育センター跡地の活用について

(答弁：市長)

巨大地震の到来が叫ばれる中、被災後の早期復旧態勢の確立と被災住民の安心を得るためには平時に可能な限りの諸対策を確立していく必要があると考える。その対策の1つとして掛川市北部方面の物資補給基地及び「緊急防災拠点」として旧教育センターの跡地を活用する考え方について伺う

- (1) 北部方面の緊急防災拠点として、資機材・生活物資・仮設住宅・ボランティア受け入れセンター・緊急ヘリポート施設など総合的な防災拠点として活用する考え方の是非について伺う
- (2) この跡地を消防署北部分遣所の建設用地とする考えはあるのか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	4	氏名	松 本 均	質問の方式 (一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	-------	--

1 障がい者新規就労500人サポート事業について (答弁：市長)

松井市長は、本年6月の本会議において、第2期の市政運営に向けた所信を述べ、細部にわたり自分の考えと社会の変化の中で、今後の掛川市がどうあるべきかを示された。その中の7つの重点戦略の1つでもある、福祉が充実したまちづくりの中に、「障がい者新規就労500人サポート事業」を実施するとある。福祉関係者や障がい者、また障がいを持つ方々の家族は本当に期待をしている。また7月には私が所属する文教厚生委員会の視察で、早くから障がい者の就労に力を入れ、成功された事例で評価ができる、岡山県総社市を訪問した。以上の事から、現在の掛川市の進捗状況と内容について伺う

- (1) 福祉が充実したまちづくりの中で、障がい者新規就労500人サポート事業の進捗状況について伺う
- (2) 掛川市には、平成24年度3障がいを合わせて5,021人の障がい者手帳所持者がいるが、なぜ500人サポート事業なのか伺う
- (3) 就労継続支援A型事業所（雇用契約型）がまだなく、B型事業所（非雇用）ばかりである。企業の力が必要であるが、最近の経済状況ではなかなか進まない現況である。A型の推進について市長の考えを伺う
- (4) 地域の理解はもちろん、企業の理解、そしてそれを繋ぐネットワークが必要だと考えるがいかがか。行政だけではなく、民間・NPO等との連携について伺う

2 放課後児童学童保育について (答弁：市長)

平成24年8月に成立した、子ども・子育て関連3法では、すべての子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、子ども及びその保護者に必要な子ども・子育て支援をとある。今回の9月定例会でも、子ども・子育て会議条例の制定について、上程されている。特に今回、掛川市における放課後児童学童保育について、その環境と運営について伺う

- (1) 現在掛川市では、21施設の学童保育が運営されている。その環境は決して十分なものではなく学校の空き教室・事務所・元倉庫を利用している施設もある。子ども・子育て3法がいう、健やかな成長のための適切な環境が等しく確保されているといえるのか、市長の考えを伺う

- (2) 今後高学年(4～6年生)の利用が可能になるとともに、利用希望者が年々増えている。私は現在の施設の規模では対応できないと考えているが、市長の考えを伺う
- (3) 学童保育を支えていただいているスタッフの確保について、少ない予算で工夫をし運営する中で、どの施設長さんも苦労している。子ども達への責任を持つスタッフの現在の賃金は安いと考えるが、市長の考えを伺う
- (4) 城北小学校区域にある「わくわくクラブ」の移転について、現時点で移転先が決まっておらず利用者も大変不安に思っている。また借家の建物も老朽化が進み大変危険な状態である。現状の立地状態が適切な環境とは言い難いため、早期の移転先の確保について、市長の考えを伺う

3 高齢者・障がい者の防災について

(答弁：市長)

今年6月に第4次地震被害想定(第1次報告)が発表された。南海トラフ地震については大変多くの被害が予想されており、前もって準備の必要性を感じているが、2011年3月11日の東日本大震災の障がい者アンケートの中に、避難所施設に避難しなかったと答えた方が、807人中、298人、36.9%あり、福祉施設に避難したと答えた方が、284人、35.1%あったことから伺う

- (1) 第4次被害想定の中にも、高齢者・障がい者については書かれておらず、大湊地区では女性の立場から広域避難所運営マニュアルを作り、大変きめ細やかな対応だと評価できるが、高齢者・障がい者の立場に立った、避難計画や避難所マニュアルがないため、早期に掛川市独自の計画を作成し活用するべきと考えるが、市長の考えを伺う
- (2) 福祉施設・支援学校等では、施設の開放をするとともに、自宅を出ることができない方々のためにも、日常必要な薬品・医療器具の確保又は優先的に搬入することで、高齢者・障がい者の不安を多少取り除くことができると考えるが、市長の考えを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	大場雄三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 お茶のまち掛川としての茶業振興に向けた取り組みについて (答弁：市長)

9年連続深蒸し茶産地賞受賞の掛川市として市の基幹産業である茶業の振興は、市の経済にとっても大きな課題である。これまでも様々な取り組みがされてきたが、今回東山地区の「茶草場農法」が世界農業遺産として認定されたことにより、より一層の茶業振興施策が期待される。

お茶のまち掛川市として茶業振興に取り組んでいくための施策、また新たに制定される「茶草場農法」の認証制度についての内容と課題について伺う

- (1) 「茶草場農法」の認証制度について、茶生産現場の思いに即したのものになったのか伺う
- (2) 茶業振興について、「茶草場農法」の認定をきっかけとして、掛川市全域として、一致団結した施策が必要であるが行政としての農商工の連携について伺う
- (3) 各茶工場ごとが行う販売促進活動に対する支援について伺う

2 耕作放棄地解消への取り組みについて (答弁：市長・教育長)

環境日本一を目指す掛川市にとって耕作放棄地の問題は喫緊の課題である。農地は大切な財産であり、農地を健全に保全し運用することは、美しい農村の景観を保つとともに、自然界の正常循環にもつながる。また農地を健全に運用することは有事の際の食糧確保にもつながる。

耕作放棄地の解消へ向けた取り組みについての実態調査と、生産者がより意欲的に取り組むことのできる今後の方策について伺う

- (1) 非農地判定をどのような判断基準に基づいて行うのか伺う
- (2) 市民農園の開設による、農産物直売所と高齢者の生きがいづくりとの関連性について伺う
- (3) 学校給食への掛川産農産物の活用について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	9	氏名	二 村 禮 一	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 地震津波防災まちづくりに向けた施策について (答弁：市長)

南海トラフ巨大地震が懸念される中、地震津波による大きな被害が想定される地域において二度と同じような悲劇がもたらされないようにするために取り組む必要がある

- (1) 揺れによって発生する死者数の軽減戦略について
- (2) 津波によって発生する死者数の軽減戦略について
- (3) 物的被害の軽減戦略について
- (4) 津波防護施設の整備、充実について
 - ① 開口部の水門、樋管の自動化、遠隔操作化、管理について
 - ② 自転車道路、河川の堤防の耐震化、かさ上げについて
- (5) 上下水道施設の地震津波に対する防災、耐震化について
- (6) 津波浸水想定地域の固定資産税の軽減について
- (7) 地震、津波対策整備基金積立金について

2 異常気象による風水害対策について (答弁：市長)

最近、列島各地で極端な気象が問題になっている。この異常気象による豪雨、風水害に対して対策を伺う

- (1) 菊川水系流域の洪水災害対策について
- (2) 竜今寺川流域の洪水災害対策について
- (3) 海岸線の砂防林の台風による浸食、風害、塩害対策について

一般質問通告要旨

議席番号	19	氏名	鷲山喜久	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 職員が「全体の奉仕者」として職務が全うされているか伺う (答弁：市長)

国の集中改革プランなどによって職員数が減った。職場環境が悪化しているように感じる。市職員が公務員としての誇りや使命感を身につけて、「全体の奉仕者」として住民の権利と福祉の実現のために安心して働く職場となるように市長に伺う

- (1) 平成17年の合併による定員適正化計画や、国の集中改革プランに基づき、全職員を対象として人員削減を行い、8年間で目標の128人の削減を達成した。今日公務公共の仕事は増える一方であり経験や熟練が求められる。「財政効率一辺倒」の行政でよいと思うか
- (2) 職員は採用時掛川市職員のサービスの宣誓に関する条例に基づき、宣誓書に署名をして、職務に就くが、市長はこの宣誓内容と行革をする立場から矛盾を感じないか
- (3) 協働のまちづくりは、市民と市職員との協働が大切で真の公務員としての仕事が生きるのではないか、今後の人員削減と矛盾しないか

2 非核平和都市宣言のまちを発展させることについて (答弁：市長)

私の選挙公報に憲法を暮らしに生かし「非核平和都市宣言のまち」にふさわしく平和予算をつけ平和行政を推進しますと掲載した。その実践として、6月議会で一般質問を行った中で市長は世界平和市長会議の総会に参加を表明した。

市長は、「掛川市戦没者追悼式」で掛川市を代表して世界平和を追求する行動を進めていきたいと思っておりますと式辞を述べられた。私は、掛川市がこの会議に平成21年に加盟したことは大きな意義があったと思う。私の選挙公報の公約を実現する立場から市長に伺う

- (1) 平和予算をつけて、まず市議会議員が任期4年の内一度は長崎または広島での平和式典に参加をして平和の尊さを学ぶようにする考えはないか
- (2) 「掛川市戦没者追悼式」の参加者が年々少なくなっているように思われる。御遺族の関係者だけでなく、市民も気軽に参加できるような内容とし、平和の尊さを学ぶ機会とする考えはないか
- (3) 掛川市内には浜野射場区(陸軍遠江射場)等が残っている。そこに説明看板などを設置する考えはないか

(4) 6月議会で私の質問に対する答弁のなかで世界平和市長会議に参加して「加盟都市相互の連携体制についても確認してまいりたいと考えております。」と答弁された。市長として得たものは何か伺う

3 3つの日本一のまちづくりのなかの「市民活動日本一」について (答弁:市長)

西山口地区は「協働のまちづくり」が市内でも一番進んでいると思うが、今のところ地区の役員が主体である。今後全地区民が参加、参画して「協働のまちづくり」の一員となるには大変な労力を要する

- (1) 市長はどのような方法で全市民が参加、参画することを目指しているか伺う
- (2) 西山口地区には、協働のまちづくりのために、今後最大どのくらいの補助金、助成金の交付を考えているか伺う
- (3) 高齢社会、税収減、市の職員減や地域の自立強調で本来市が行うべき仕事に分権、権限委譲で結果的に市民負担とならないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	12	氏名	草 賀 章 吉	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 市職員の人材育成について

(答弁：市長)

市政運営には、トップの市長の識見・情熱・マネジメント力は極めて重要であるが、行政職員の資質には、将来を見通した先見性、時流を捉えた知恵と行動力が不可欠である。人材育成の考え方を伺う

- (1) 地方分権の時代を迎え、掛川市では自治基本条例が施行された。これからの職員に特に求められる資質は何かを伺う
- (2) 市ではそのためにどのような人材育成のプログラムを実施しているか伺う
- (3) 東京財団が実施している自治体職員を対象にした「週末学校」をご存知か伺う

2 農業及び農地について

(答弁：市長)

日本の農業は、いま岐路に立っていると思われる。少子高齢化、農業の担い手不足、農業生産性の低さ、過剰米による生産調整の休耕対策など日本の農政は決め手を失っているようである。TPP参加反対の声は聞こえるが、適切な農業政策が語られないなど農業に携わる人は将来が見えずにたいへん悩んでいるのではないかと思われる。農業とあわせ農地を含む土地利用の促進をどう考えるか伺う

- (1) 平成19年に発行された「掛川市農業振興ビジョン」は平成28年度までの10年間を見通した計画であるが、農業の課題と必要な取り組みとして下記6項目が挙げられている。その取り組みとその進捗・評価を伺う。
 - ① 担い手の確保・育成
 - ② 環境に配慮した農業生産基盤の整備
 - ③ 優良農地の確保と効率的利用の推進
 - ④ 強い産地づくりの推進
 - ⑤ 先進技術の導入と普及推進
 - ⑥ 新たな経営展開の推進
- (2) 経営耕作面積3,849ヘクタール中、水田は1,642ヘクタールとのことだが、専業農家561戸中、稲作農家は何戸（何法人）か伺う。なお、稲作農家は耕地の集約化が進んでいるようであるが、集約及び経営状況を伺う
- (3) 農地6,808ヘクタールのうち耕作放棄地は1,032ヘクタールとのことだが、耕作放棄地の要因別の実態を伺う

- (4) 農地法、農業振興地域の整備に関する法律が土地の有効利用や地域づくりの障害となっているとの議論があるが、どのように考えているか伺う

3 下水整備事業について

(答弁：市長)

下水整備事業は、環境日本一を掲げる我が市にとっては極めて重要である。しかしながら、公共下水道を全市に敷設することは地理的、財政的な観点からも大きな課題がある。下水道計画を抜本的に見直すべきではないか

- (1) 公共下水道事業区域の整備は計画どおり継続するのか
- (2) 平成23年度に伺った計画では、下水処理5つの方式の割合を下記のように計画されていたが、抜本的な見直しをしたらどうか
- ・公共下水道事業 65.2%
 - ・農業集落排水事業 4.2%
 - ・コミュニティプラント 0.6%
 - ・浄化槽市町村設置 10.5%
 - ・浄化槽個人設置 19.5%
- (3) 個人の合併浄化槽設置を推進し、下水整備事業のスピードアップを図るべきと思うがいかがか

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	6	氏名	小 沼 秀 朗	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 待機児童ゼロ政策について

(答弁：市長・教育長)

多くの子育て世代の目を、この掛川市に向けさせるためには、少なくとも中東遠地域の中でその支援策がぬきんでていなければ、「子供を育てるなら掛川市で」と言われる程にならないと考えられる。「人口の減らないまち」となるよう未来への投資である「子育て支援」に数多くの政策を行っていくべきだが、その一つとして市内待機児童をゼロにする事が良策の一つであると考えている。

- (1) 希望の丘に予定されている認可保育所の有効活用について伺う
- (2) 平成26年度待機児童解消対策について伺う
- (3) 現在の定員割れ園について伺う
- (4) 親が子を育てる教育の促進について伺う

2 健康医療日本一を目指す今後の政策について

(答弁：市長)

中東遠総合医療センターの開院、希望の丘の実現など、ハード面が整いつつある掛川の医療について、今後は、ふくしあ等のソフト面が重要となるのではないかと考える。市民による協働のまちづくりの一環としても、フェースツーフェースのホスピタリティサービスの充実が必要であると考えている。今後の政策を伺う

- (1) ハード面が整いつつある掛川の医療について、今後の政策について伺う
- (2) ふくしあを市民の皆様にも有効活用していただくためのより良いPR方法を伺う
- (3) ふくしあの4つの柱、包括、行政、社協、訪問看護は連携が取れているか伺う
- (4) 福祉関係者の負担はかなり大きい。今後も負担増が予測される中、ある程度の支援や収入源が必要ではないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	雪山敏行	質問の方式 (一問一答・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 掛川市内陸フロンティア構想について (答弁：市長)

新東名が昨年6月に開通し、多くの車両が通行し、人、もの、情報が盛んに交流している。これらの活力をいかにして掛川市域へ取り込むかは、「地域経済力のあるまちづくり」を推進するうえで、大きなチャンスであり、また活力の低下している掛川市北部中山間地域住民の願いで、積極的に取り組むべき課題であるとする。とりわけ新東名掛川PA周辺には未活用市有地もあり、この有効活用を含む掛川市内陸フロンティア構想を早期に策定し計画的に推進することが肝要である。ついては掛川市内陸フロンティア構想への取り組みについて伺う

- (1) 構想を年度内にまとめると伺っているが、構想の実現に向けては掛川市総合計画、国土利用計画、都市計画、防災計画等各種計画との調整が必要と考えるが所見を伺う
- (2) 構想策定に地域住民の要望・意見をどのように反映させるのか
- (3) 県構想では実現に向けて各種施策の集中化を図っているが、県構想との調整状況はいかがか
- (4) 整備構想のカギを握る新東名掛川PAへのスマートIC設置検討状況はどうか

2 掛川市防災計画について (答弁：市長)

気象庁では本年8月30日から新たに数十年に一度の降雨や震度6以上の地震動等が予想される場合「特別警戒警報」を発表し最大限の警戒を呼び掛けることとなった。ついてはこれに的確に対応するためには市民の正しい理解促進が必要と考えるがいかに取り組むのか、また、掛川市防災計画への反映が必要と考えるが所見を伺う。

新東名高速道路は防災の緊急輸送路として重要であり、新東名掛川PAに設置されたヘリポートは進出してきた防災関係機関の空輸基地としての役割が期待されているが掛川市としてこのヘリポートをどう評価しいかに活用するのか、防災計画にどのように反映するのか所見を伺う

- (1) 特別警戒警報への対応
 - ① 特別警戒警報に対する市民の正しい理解促進に向けていかに取り組むのか
 - ② この措置を受けて防災計画の見直しを行うのか

(2) 新東名掛川PAへリポートの防災活用

- ① 掛川市としてこのへリポートをどう評価しいかに活用するのか
- ② 活用するなら防災計画に反映するのか

3 里地里山の保全と活用について

(答弁：市長)

里地里山は、奥山自然地域と都市地域の間位置し、長年人と自然のかかわりを通じて形成され、多様な生物の生育環境、茶や米等の生産や良好な景観の場、国土保全など重要な地域であり、世界農業遺産として認定された茶草場農法が展開されている地域でもある。このことは過日放送された「ニッポンの里山」でもその重要性が認識された。

しかし、近年の産業構造や生活の変化、中山間地域の人口減少等により農林業者や地域コミュニティーでの維持管理は困難となっている。一方、各地でも「新しい公共」の広がりともあまって都市住民や企業などが関わるいわゆる「協働の力」で保全活用が展開されつつある。

については掛川市において里地里山の保全と活用を積極的に推進すべきであると考えているがその取り組みについて伺う

- (1) 行政が推進・調整役となって里地里山の保全活用を推進する考えはあるのか
所見を伺う
- (2) 喫緊の課題としての茶草場の具体的な保全活動をいかに取り組むのか

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	野口安男	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 内陸フロンティアに係る、掛川市北西部の発展・開発について

(答弁：市長)

現在、掛川市では、新病院が稼働し、「希望の丘」が建設されようとしている。また、掛川駅前再開発事業の構想もある。このように、掛川市が変革・改善への途をとりつつある現在、市街地外の展望が今ひとつはっきりしない。特に、掛川市の北西部においては、現状と今後の発展について、どのように考えているのかを市長として一般市民に公開することが大切と考え、次の質問をする

(1) (仮称) 西環状線開発の現状と今後の将来像について

例年行われている市民総代会地区集会において、何回も質問がされているが、今のところ発展的な回答は出ていないように思う。

掛川市道路整備プログラムにおいては、総合評価として、「長期整備予定」とされている。20年余この整備計画が凍結のような状態になっているので、森掛川インターチェンジができた今、早急に展望を必要とするものである

(2) 企業誘致と雇用促進について

行政・企業・市民が協働で積極的に発展あるまちづくりを推進してきた市長は、菖蒲ヶ池工業団地の企業招致、また、この度は、新エコポリス第2期工業団地への企業進出の決定等、輝かしい成果を収めつつある。その中で、新東名の森掛川インターチェンジが開通した北西部こそ企業誘致が必要に思われる。そのことについての考えを問う

(3) 住宅建設と商業の発展について

上記の内容についての関連で、道路が整備され企業進出が進めば、そこに住む人間が多くなってくるのは当然のことである。また、地元住民も他への勤務をしなくても近くの企業に勤務するようになる。人が住むようになれば、生活に必要なことが発展してくる。北西部の住宅建設・商業の発展について市長の考えを問う

(4) 防災・減災機能の強化・充実について

森掛川インターチェンジ周辺の開発と防災・減災機能の強化・充実をできるだけ早く取り組んでいくことが大切と思う。今後の方向性を問う

2 学校や地域・家庭での「教育に対する力点」について

(答弁：教育長)

子どもたちのよりよい成長のために、知・徳・体・情・意の観点から指導をし

ていかなければならないが、社会生活や環境の変化から対策も変化してくる。

園児・児童・生徒にとって健やかな成長のために多様な方策がとられていると思う。基本的には、園や学校に行くことが楽しいと思うようにしなければならない。「安全・安心」をも含んだ各種の取り組みについて教育長に伺う

(1) 9つの中学校区における学園化の進捗状況と今後の展望について

次代を担う園児・児童・生徒の健やかな成長は、日本国民だれもが願うものである。従って、学校教育・社会教育・家庭教育の三者が連携し支援していくことが叫ばれて長いことになる。その中で、掛川市は、今年度から、9つの中学校区で、学園化が進められている。その学園化について、進捗状況や今後の展望等を市民に公開していくことが大切と考える。

(2) 学力向上は、児童・生徒にとっても極めて大切なことと考える。先の学力状況調査では、静岡県は、小学校において厳しい結果であった。学力をどのように捉えるか難しい点もあるが、ペーパーテストで出た結果が比較されるとそこを考えざるを得ない。他の要素も大切な点は多くあると思われるが、掛川市としては学力をどのように考え、向上のためにどのような方策をとっているのか伺う

① 授業改善への取り組み

学力向上に向けて、教員は日々研修を積み、充実した授業を目指して研さんしていると思われる。授業こそ充実できれば、必要最小限の家庭学習で済むのではないか。掛川市が取り組んでいる「教員の目指す授業」とはどのようなことに重点を置いているか

② 家庭学習のあり方

秋田県の取り組みについて、先般報道されていたが、その中で「家庭学習の取り組み」についてあげられていた。学校教育がゆとり教育を全面に出していたころとはちがっている現在では、どのように考えどのように取り組ませているのか問う

一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	渡 邊 久 次	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 子育て支援・小中学校教育の充実について (答弁：市長・教育長)

厳しい経済状況が続く中、働きながら、安心して子育てができるようにという保育ニーズは拡大している。市長の掲げる「子育て支援が充実したまちづくり」の推進のために、喫緊の課題である待機児童の解消対策について、具体的にどのような対策を講じていくのかを伺う。また、小中学校における「読書指導」「食育指導」「子どもの健康管理」に関して、子どもたちが生きる教育の充実のために、どのような施策を講じていくのかについて伺う

- (1) 現在の待機児童の数と、待機児童解消のために、取り組むべき課題について伺う
- (2) 「平成26年度待機児童解消対策について」の中で、待機児童の見込み総数85名としている。「子育て支援が充実したまちづくり」の推進のためには、真に待機児童をゼロにしていくことが必要だと考えるが、市長の見解を伺う
- (3) 本年度、市内の小中学校に配置されている図書館司書(学校図書館担当職員)の数と勤務形態について伺う
- (4) 平成24年度スタートの「学校図書館図書整備五カ年計画」の掛川市における進捗状況について伺う
- (5) 子どもの「読み取りの力」の低下が問題となっている。そのために、「読書指導の充実」が求められているが、どのような取り組みが行われているのか伺う
- (6) 最近、生活環境の変化や食生活の乱れによって、子どもの心身の発達阻害が問題となっており、「食の教育」が重要視されている。掛川市における食育指導の重点について伺う
- (7) 給食調理場をセンター化した場合のメリットとデメリットについて伺う
- (8) 小中学校では夏休みが短縮傾向にある中で、子どもたちが猛暑の中で授業を受けるといった状況が続いており、子どもの健康状態が心配である。どのような暑さ対策を講じているのかを伺う

2 ごみの分別方法の統一とごみ有料化について (答弁：市長)

掛川市が、「ごみの減量日本一」が達成できたのは、市民のごみの分別と資源化の取り組みの成果である。ごみ分別方法を掛川市内全域統一にするために、これまで大東・大須賀区域で実施されてきた18分別をやめて、掛川区域に近い新た

な12分別に統一することが提案されている。それによって、「処理困難物の増加」や「ごみの分別の意識の低下」が懸念されているのであれば、ごみ減量化に逆行するのではないか。また、ごみ袋の値上げというが、値上げ分は「処理手数料」であるから、明らかに「有料化」である。有料化すればごみの減量化につながるというのも根拠に乏しい。有料化について、どのようにして市民の理解を得ようとしているのかを伺う

- (1) ごみの分別方法を統一することによって、どんなメリットがあると考えているのか伺う
- (2) これまで掛川区域で指定袋回収されていた不燃物は、環境資源ギャラリーで袋を開け、小型家電やフライパンなどを仕分ける作業が行われていたが、その作業にどれくらいの経費がかかっていたのか。また、分別方法が統一されると、どれくらいの経費増になるのかを伺う
- (3) 大東・大須賀区域では18分別が定着し、市民の協力が得られている。掛川区域で指定袋回収されていた不燃物を、分別してコンテナ回収とする分別方法への統一はできないのかを伺う
- (4) ごみ袋の値上げというが、ごみ袋の原価は変わらず、値上げ分が「処理手数料」として市の収入となり、これは明らかにごみ処理の「有料化」である。今なぜ有料化しなければならないのか、市長の見解を伺う
- (5) ごみ処理の有料化によって、さらなるごみ減量意識の高揚を図るというが、ごみ処理の有料化をしている県内16市町での、ごみの減量化の状況を伺う
- (6) 平成26年4月実施に向け、どのようにして市民の理解を得ようとしているのかを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	窪野愛子	質問の方式	(一問一答)・総括
------	---	----	------	-------	-----------

1 健康医療日本一のまちづくりについて (答弁：市長・教育長)

市民意識調査の結果では常に優先順位が高い「地域医療・救急医療の確立」誰もが願うのは健康で長生きである。しかしながら、現状は必ずしも幸せな老後を迎えられる人ばかりではない。増え続ける医療費や介護費を抑制する一つの手立てとして、誰もが「幸齢者」となるために、若年時から自分の体を大切にする生活習慣を身に付けることが必要である。疾病予防、介護予防への取り組みに対するさらなる施策について伺う

- (1) 松井市政4年間における健康医療日本一への取り組み、成果、課題を伺う
- (2) 市長が描く、健康医療日本一のまちの姿とはどのようなものか伺う
- (3) 健康増進、健康寿命延伸のための予防対策について伺う
- (4) 次代を担う子ども達に、緑茶の効能学習や飲む習慣を身に付ける機会を、教育現場でも増やすことはできないか伺う

2 市民活動日本一のまちづくりについて (答弁：市長)

自治基本条例が本年4月に施行され、様々な場面で「協働元年」の文字を見聞きする。今後、まちづくり協働推進条例も施行となり、地区まちづくり協議会という組織が立ち上がっていくようだが、そこには山積する課題がある。基本条例や推進条例の施行によって、地域活動や市民活動がさらに活性化・発展し、市民一人ひとりが生きがいをもって暮らしていくために、行政のめざす「まちづくり」の姿について伺う

- (1) 平成23年度～平成25年度市民意識調査結果では、市民の「協働まちづくり」に対する優先度は低いですが、今後どのように市民意識を高めていくのか伺う
- (2) 10年～20年先を見据えた発想で、まちづくりの主役となる世代の育成はどのように考えているか伺う
- (3) 大東区域、大須賀区域の市民交流センターの稼働から6年、掛川区域の市民交流センターの開設予定はあるのか伺う